

第15号

平成19年12月

●スペースパークボランティアの会●

## S.P.V つうしん

発行：スペースパークボランティアの会 広報部会

〒963-8002 福島県郡山市駅前2-11-1 郡山市ふれあい科学館内 TEL024 (936) 0201

## 夜空の星にロマンを求めて!

## 「レンズの中の宝石箱展」

天文グループの写真班は時折々の星野・星景写真や県内外、或いは海外遠征でのオーロラや皆既日食、また数十年、数百年に一度起こると言われる天文現象にチャレンジしています。メンバーが撮影した作品を県内の各所で展示し多くの方々に見ていただくという企画が行われています。テーマは「レンズの中の宝石箱展」。カメラで捉えた星々の美しい姿、貴重な天文現象が展示されています。今年6月の会津若松市にある竹田総合病院に始まり県立宮下病院、郡山市内では市役所本館展示スペース、東邦銀行郡山支店ロビー、総合南東北病院とまわりました。訪れた方々は普段あまり見たことのない写真に興味深そうに下の説明文と写真を見比べています。特に病院での展示では患者さんが「とかく籠もりがちになる入院生活の中で心が癒されました。」との意見を頂戴しました。これからも見る人の心を癒す作品を心がけていきたいと思ひます。

## 「石川スターライトフェスティバル」

10月12～14日に福島県石川町で全国から天文ファンが集結するお祭り「第16回石川スターライトフェスティバル」が行われ約3,000人の参加がありました。天文グループもブース参加し各地の天文同好会、望遠鏡メーカー、同販売店などと並んで全国から集まった天文ファンに活動を紹介しました。県内からも多くの方が訪れ秋晴れの下、星を見るには絶好の環境の中、全国の天文屋が持ち寄った自慢の望遠鏡

で光害の多い街なかではなかなか見ることが出来ない「アンドロメダ銀河の暗黒帯」「オリオン座大星雲のトラペジウム」などディープな宇宙のパノラマを堪能しました。

また、国立天文台の渡部潤一准教授がプライベートで参加され、私たちと一緒に芋煮の鍋で暖をとりながら天文談義に花を咲かせ、とても有意義な時間を過ごすことが出来ました。

石川町SLF実行委員会(青柳会長)の手作りで実にアットホームな星まつりで、参加者全員に豚汁や焼きそばなどが無料で振る舞われるミッドナイトスターパーティー、そして何よりも多くの星々を見て感動を味わえる特典があります。

来年は是非参加してみてください。(捧)



**スペースパークボランティア募集!** ※無償参加可能な方。他応募条件有り。詳しくはお問合せください。

郡山市ふれあい科学館スペースパークでは生涯学習ボランティアを募集しています。現在、当館では幅広い年代層のボランティアの方々が活躍しています。私たちと一緒に楽しんでみませんか。興味がある方は、お気軽にお問い合わせください。

問合せ先: 郡山市ふれあい科学館 管理課

**TEL024-936-0201**

## 鉄道ジオラマグループ

今年で5回目を迎えたJR東日本郡山駅共催の「鉄道フェスティバル」が10月6～8日に開催されました。今回のテーマは『東北新幹線開業25周年記念』として新幹線スペシャルコーナーが設けられました。私たち鉄道ジオラマグループ最大のイベントとして準備を進めてまいりましたがその一端を述べてみたいと思います。まず22階の鉄道ジオラマ駅では今年も元気なトーマス君が疾走し、隣では新「鉄フェスのシンボル」として登場した運転操作台で機関車や電車の汽笛の大きな音にビックリ。点滅する表示灯やブレーキの圧力計を見ながら「出発進行!」と挨拶したりして運転士気分を満喫する子どもたちがいました。また「D51のお値段はいくら・・・?」などと質問する小学生やメモ用紙片手の年配の男性などもいて熱気ムンムン。一方20階の鉄道フェスティバル会場駅では改札口を入ると仲間たちが収集したレトロ調腕木式信号機や標識灯などのグッズ類が飾られ、また好評で順番待ちのNゲージや科学グルー

プの「THE (ジ) 転車でGO!」で元気よくペダルを踏む子どもたちもいました。案内、天文グループによる電車クラフト、プラレール、ミニSLの各コーナーも大賑わい。一方新幹線スペシャルコーナーでは0系新幹線の前頭部、方向幕、写真類などが展示され、またふれあい科学館Xさん扮する銀河鉄道99謎の美女「メーテル」が突然宇宙からやってきたりして盛り上がりみせ、入場者数も過去最高の4500名を数えました。この盛況も私たちの仲間ももとよりS.P.V各グループ及びふれあい科学館の皆さんのご協力の成果と思っております。最近東京など大都市で「鉄道を通して家族や友人たちと思いつくる癒しの空間」として「鉄道カフェ」が大流行、またTBS系では鉄道マニア連ドラの放映など鉄道に想いを寄せる人々が多くなりました。今年は富久山公民館、イオンタウン郡山、日大工学部学園祭などからボランティア活動の出張要請がありました。鉄道に愛着を抱く大勢の人たちとともに「鉄道の魅力を通して子どもたちに夢と希望を与えよう!」との目的のためS.P.V会員の皆さんとともに頑張っていきたいと思っております。(瀧田)



## 科学グループ

科学グループは恒例となりました「ジ (THE) 転車でGO!」と工作を行いました。20階、研修室駅へ入るとすぐに目に入るNゲージ。脇では懸命に自転車のペダルを踏む子ども… (大人も)。なんと人力発電で動いているんです! 大小2台ある自

転車で、時折親子対決もみられました。気合いが入り過ぎてペダルから足がはずれてしまったり…。みんなとても元気一杯でした。奥の日だまりの中にある工作コーナー。ペーパークラフト (新幹線とJRバス)、おきあがりコロリンが作れるのですが、一番人気は新幹線! ハサミが苦手な子が多く、替わってとっても丁寧に作るお父さんがいましたねえ。おきあがりコロリンは…、作るよりも転がして遊ぶ方が楽しかったようです。2日間大勢の方に楽しんでいただいて、嬉しく思う科学ボランティアメンバーです。(星 (ゆ))



## 鉄道博物館を見学

日本で最初に鉄道が新橋・横浜間に開通したのが、1872年10月14日でした。この日を「鉄道の日」と設定してから135年経過し、この鉄道の日にあやかり、JR東日本設立20周年を記念し鉄道博物館が開業となりました。われら鉄道OB会で見学を計画し、早速開業翌日見学に行きました。わが国の鉄道に関する開

業から現在に至るまでの各種車両の変遷・各機械・器具などが会場を7つのゾーンに分け、各ゾーンに詳細な説明提示があり、理解し易く広大な展示場であるが、さすがJR東日本であると思われる様な展示場ばかりで大変見応えがありました。1階から屋上のパノラマデッキまで広範囲であるが、列をなす有料箇所を除けば割合スムーズに巡ることが出来ます。大宮駅から近くなので、是非一度は見学も宜しいかと思われます。(国分 (辰))

## 天ボラの ● 火星接近

### 知識の泉<sup>14</sup>

夜の8時頃東の空を見上げるとオリオン座とふたご座のちょうど中間くらいのところに赤く輝く星があるのがわかります。12月19日に2年2ヶ月ぶりに地球と接近する火星です。地球の半分程の半径ですが月の2倍の半径があります。地球と火星の軌道の違いから2003年の大接近の時は地球との距離は5500万kmでしたが今回は8800万kmとかなり遠くになっています。それでも小さな望遠鏡でも十分観察できるので是非ご覧になってください。(田辺)



# 夢空間を創ろう 鉄道フェスティバル開催

## 鉄道フェスティバルに思う

鉄道記念日に伴うイベントは5回目になります。初めはどのような展示物が集まるか、どのように集めるか、持っていそうな人にアタック。ある先輩の奥様の話では「毎日生き生きと部品探しをしていた」と。記念キップ、記念入場券、列車の行先票、車籍銘盤、SLのプレート、通票、写真パネルなど苦労はあったが整えられました。

今はインターネットで鉄道部品の売買をする時代です。しかし、子どもから孫に時代が変われば大方の部品は忘れ去られます。そこで鉄道OB会仙台地方本部に部品の登録制度を作る提案をしています。子どもに人気のあるのはNゲージの運転、ミニ運転台の運転体験、新幹線の工作コーナーです。何回か顔を会わせた中学生は「鉄道模型は卒業、次は宇宙です!」との話で

した。昨年は戦後60年、郡山駅の空襲がテーマでした。そのとき年配男性が若い人に保土ヶ谷の空襲の話したら「戦争は貴方たちがしたのでしょ」と寂しい話。またある婦人は「学童疎開で山形に行く途中、郡山駅で空襲警報があり避難した」との話。ボランティアを通じ多くのお客様と対話出来る喜び、これからも快い出会いと対話を心がけたいと思います。(新田)



## 鉄道フェスティバル余話

今年も、入場者増で終了しました。大変喜ばしい事です。さて、来年に向けての課題と反省点を述べて見たいと思います。

まず、昨年まで参加の常連であったお二人が欠けてしまった事です。予期できない事とは云え、白い旧国鉄の姿で案内していた姿は、もう見る事ができないのは寂しい事でした。

課題としては、参加する会員が特定されてしまった事。会員ならば、全員参加が基本なのに、参加者は限られた人だけでした。展示物でも、鉄道の蒐集品ばかりでは、年少者にあきられてしまいます。新しい鉄道の姿、リニアモーターカーや、東海道や九州新幹線の姿など鉄道技術の変遷の姿も展示してみたいと思います。さらに、鉄道模型の操作体験は好評でしたが、模型の持込者が多いのに気づきました。年少の鉄道ファンのためにも操作体験コーナーをさらに増やすことはできないだろうかと思いました。3日間を通して、郡山における鉄道の役割と、体験により鉄道についての理解を深めることができれば成功だと思います。(兼谷)



## 内田博士の魂の叫び!! ⑨ 『サービスの原点』について考える。

水戸光圀が家臣の佐々木助三郎、渥美格之進、お銀、飛猿、八兵衛、弥七らとともに諸国漫遊の旅先で世直しをするという物語をご存知ない方はいらっしゃらない。一説によると昭和天皇も熱狂的なファンだったとか。

今は亡き弥七はカッコ良かった。前置きはこの辺にしておいて、悪人共との立回りもそこそこに「静まれ〜!静まれ〜!ここにおわしますお方を誰と心得る!先の副將軍水戸光圀公にあらせられるぞ!ご老公の御前である!頭が高い(葵のご紋の印籠を出す)!” “はっはー(一同臥拝)!”そして、ご老公の厳しいおとがめの後、正直者で事件に巻き込まれたが故にチョイと魔が差してしまった貧乏人の夫婦が“ありがとうございます〜”と涙を流す。“あっはっはっ(主人公が甲高く笑う)”〜水戸老

公とその一行の旅は続くのであった♪。

あの名場面“頭が高い!”と印籠を出した瞬間、あの悪党共が一斉に怯み臥拝する姿はトイレに行く暇も惜しいほど心地良い爽快感を与えてくれるし、あの物語の価値はそこにあるように思う。毎回同じようなストーリーで、他にはせいぜいお銀の入浴シーンと饅頭の下の小判ぐらいしか印象に残らないにも関わらず何度観ても飽きない。つまり物語を見る側(お客様)の期待に応えている。私もS.P.Vメンバーとして、科学館に足を運んでくださるお客様は何を期待しているのかをもう一度考える月曜日の夜でした…。



## イベント情報

## Event Information

## ボランティアまつり 10:00~17:00

● 3/22(土)・23(日)

毎年恒例の“スペースパークボランティアまつり”が開催されます。大活躍中のボランティアグループが今年繰り広げた様々な活動の集大成をみなさんにお贈りします。昔懐かし紙芝居の実演や解説付き鉄道ジオラマショーなど楽しい企画がいっぱいです!みなさまのお越しをお待ちしております。

- ★実演体験…昔懐かし紙芝居の実演、解説付き鉄道ジオラマショー  
★参加体験…昔あそび、科学工作、天文工作、天体パズルに挑戦、天体観望会

などなど、ほかにも楽しい企画が盛りだくさん!



## S.P.V 活動情報(～3月)

※科学館休館日を除く。なお都合により活動が休止となることがありますのでご了承下さい。

## 案内サービス “昔懐かし” 紙芝居

◇平日11:30～、土日祝11:30～、14:30～(約15分)

☆随時実演

## 科 学 かんたん科学工作ほか

◇土日祝10:00～16:00(展示ゾーン入館者)

## 鉄道ジオラマ ジオラマショー案内

◇平日11:00～のみ、土日祝11:00～、15:00～(約20分)

## 天 文 駅前観望会

◇3/1(土)・3/8(土)・3/15(土)・  
3/22(土)・3/29(土) 18:30～

他に市内出張活動や駅前イベントにも出展予定

## 今号のきら星☆さん 案内サービスグループ 池田哲雄さん

## ボランティア3年目に想う心

5年前です。町内会一行20名程度で当館に見学に来ました。その時、展望ロビーで案内サービスグループのボランティアの方と話すチャンスがあり興味を持った訳です。会社を退職した翌年応募し、今年で3年目になりました。来館者の皆さんと話すのは好きですが、紙芝居を演じるのは最初抵抗感がありました。その後、回を重ねる練習の結果、次第に多少自信(?)が付き、現在では得意の山形・庄内弁(山形県酒田市生まれで郡山在住49年目)で熱演しますので(?)お客さんには喜んでもらっているものと自分なりに満足しております。特別才能のない人間ですので、ボランティア仲間の方々と行動できる事は本当に幸せと感じています。活動日は家族に笑われるほど早起きし、自転車を快く走らせて来ます。



★『S.P.Vつうしん』発行予定 第16号 3月中旬★

★S.P.Vの楽しくてタイムリーなボランティア活動情報をHPでお知らせしています

HPアドレス <http://www.spacepark.city.koriyama.fukushima.jp>

募集や活動等についてのお問合せは……ふれあい科学館 TEL 024 (936) 0201まで

編集あとがき

- ・秋深く、寒さ身にしみ、活動的ではないが、来春に備え、英気を養いましょう。(国分(辰))
- ・寒い冬に負けないうらい、あったかい紙面を作っていきたいなあと思います。(椎野)
- ・冬の風が吹き、2007年も幕を閉じようとしています。夏の「銀河鉄道999」は良かったなーと暑かった夏をなつかしく思っています。(早野)
- ・あっと言う間にまた一年が過ぎてしまいます。今年こそは…と、何だか毎年同じ目標を掲げている様な気がします。少しずつ夢に向かって進んでいきたいと思っています。(星)

